

令和元年6月26日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02158

研究課題名(和文) タマシイの観点からみた中国を中心とする東アジア辟邪文化の総合的研究

研究課題名(英文) General study of the talisman against evil of East Asia looked from the viewpoint of soul

研究代表者

大形 徹 (OHGATA, Tohru)

大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授

研究者番号：60152063

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：辟邪文化に関して、文献および実地調査から考察した。文献は『五十二病方』や『千金翼方』などにみえる辟邪の例を読解して考察した。実地調査は、石垣島・タイ・ネパールなどを調査し、手首などに巻く紐について考察した。宗教や民族は、それぞれ異なるが、いずれも、タマシイの観念を有している。そのタマシイが抜けないうえの方策として、手首あるいは頸部、あるいは体にヒモを巻くことが行われていた。そのことは、中国の文献などによっても確かめられた。最終年度は大形徹が「辟邪図」、山里純一が「石敢当」、佐々木聡が「白澤」、大野朋子が「ダレオ(鬼の目)」という題目で研究発表をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、辟邪や魔除けに関しては、学術研究は、ほとんどされていなかった。辟邪文化を中国だけでなく、中国の周辺に位置する石垣島・タイ・ネパールにまで拡大して、文献および実地調査をおこなった。手首などに巻く紐は各地に存在し、宗教や民族がそれぞれ異なるものの、いずれも、その根柢にタマシイの観念を有していることがわかった。あと市民講座で、代表・分担者が、それぞれ、「辟邪図」、「石敢当」、「白澤」、「ダレオ(鬼の目)」、「手首にまくヒモ」などについての講演を行った。いずれも、他では聞くことのできない話ばかりであり、すこぶる好評であった。

研究成果の概要(英文)：About the talisman against evil, we considered it from documents and an on-the-spot survey. We read "Wu shi er bing fang" "Qian jin yu fang", and considered an example of talisman against evil. We investigated Ishigakijima, Thailand Nepal and considered a string to bind wrists with. Religion and the races are different, but all have the idea of the soul. As a way for the soul not to fall out, they bind a wrist, a neck and a body with a string. The Chinese documents show it. The last year, Tohru Ohgata performed presentation of the study called "Picture of the talisman against evil (辟邪図)". Junnichi Yamazato performed presentation about "a talismanic monument (石敢当)". Satoshi Sasaki performed presentation about "divine beast (白澤)". Tomoko Ono performed presentation about "eyes of the ogre" (ダレオ).

研究分野：中国哲学

キーワード：タマシイ 辟邪 ヒモ 石敢当 白澤 ダレオ ヒモ 魔除け

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで辟邪に関して学術的な考察は、ほとんどなかった。国や地域、宗教、言語をこえて、存在するさまざまな辟邪に関するものを、タマシイという概念を中心に考察すれば、理解できるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

タマシイ(魂・マブイ)と呼ばれるものは、宗教や思想と呼ばれるものの枠組みができあがるより、ずっと以前からその存在が信じられていたように思われる。タマシイの存在を前提として宗教や思想ができあがっていったのだろう。そのタマシイの存在を脅かすものが「邪」である。「邪を」辟(避)けることが「辟邪」と呼ばれ、そのことに全力が注がれた。本研究では、そのような「辟邪」の観念やその織りなす文化について考察する。その際、中国を中心とする東アジアあるいは東南アジア全体を視野に入れながら、従来、思想史ではほとんどとりあげられることのない医学・本草関係の文献、考古学資料、絵画、植物、匂い、色、音などの要素にも留意しながら聴き取りも含めて考察する。そのことによって文字資料だけでは浮かび上がらせることのできなかった新しい世界を鮮明に提示できるのではないかとと思われる。

3. 研究の方法

「噓(くしゃみ)」「くさめ」を例としてあげてみよう。『詩経』(春秋時代)では、「願言則噓」とあり、そこにつけられた後漢の鄭玄の注は[箋]「今俗人噓、云人道我、此古之遺語也(今俗人噓(くさめ)して、人、我を道(い)うと云う、此れ古の遺語なり(世俗は、くしゃみをしたら、人が自分の噂をしているというが、これは昔からの言い伝えである、という)」。現代の中国では、「一個一百歳、兩個兩百歳」という。くしゃみ一つのときは、「百歳(寿命が延びる)」といい、二つなら「二百歳(寿命が延びる)」という、とされる。この話は『徒然草』にみえる老婆が「くさめ、くさめといいもて行きけり」という話に似ている。「くさめ」は、もと乳母であった老婆が、若君が風邪をひかないようにと、述べた呪文である。若君がくしゃみをし、タマシイが一瞬抜けた瞬間に、邪鬼が若君の口あるいは鼻から体内に入り込むことを防ぐために、邪鬼に対して「くさめ(くそはめ、くそくらえ)」と唱える呪文である。沖縄では「くすけ」という。「誰かがくしゃみをした時に、思わず、小さな声で「くすけ」と唱えてしまう(2015年度琉球大学法文学部4年生、女)」は、幼いときからの習慣が、つい口をついて出てしまうということだろう。「くすけ」もまた「くそくえ」の意味である。英語圏でも、くしゃみのあと、God bless you という。「くさめ」は「辟邪」の語で「一個一百歳」は招福の語かもしれない。しかし、いずれにしても、くしゃみはタマシイが、飛び出してしまうかもしれない恐ろしいことで、それに対して何らかの対策を行なわねばならない、という認識は共通している。タマシイという考え方を根柢にすると、中国語、日本語、英語という言葉や文字の枠組みを越えて共通する思想が見出せるように思われる。

中国哲学では文献資料を「思想」とみて考察している。例としてあげた鄭玄のことは文献として残されていた例である。しかし実はそれは鄭玄自身の思想ではない。当時の世俗の誰もが知っていることを、たまたま、鄭玄という知識人が簡潔に書きとめたものである。『詩経』の詩が、そのことにふれていなければ、鄭玄はそのことを書きとめようとは思わなかったであろう。鄭玄もふくめ、当時の人々にとって当然の話で、わざわざ書く意味のないことだったからであろう。人が生まれ成長していく過程、日々の暮らしのなかでその文化の影響を受けて、しぜんと身についた考え方といえる。沖縄の人が「くすけ」と思わず口をついて出る。それほどまでに血肉化しているであろう。これらもまた「思想」ではないだろうか。これまで、我々は、孔子、孟子、老子、荘子といった特別にすぐれた人たちの考えを「中国の思想」と呼んできた。しかし世俗のほとんどが疑いもなくそのように思っている考え方の方が実は普遍的な思想であり、孔子や孟子などの考えは、むしろその当時の特別な思想ではないだろうか。

こういった普遍的な思想が言語を超え、地域を超え、時代を超えて共通性をもつことがある。

たとえば、「形」「色」「音」「におい」「材質」といった、ことばや文字以外の要素が、そこに働いているかもしれない。そして、それらの根柢には、「タマシイ」という大きな概念が潜んでいることが多い。そのあたりに着目して研究をすすめたい。

4．研究成果

これまでの文献的な調査に、石垣島・ネパール・タイなどの現地調査の知見を加えることによって、さまざまな辟邪に関するものは、国家、宗教、言語などをこえた共通性があることがわかった。国家や宗教、それに文字が作られるよりはるか以前から、タマシイという概念は存在し、そのタマシイを守るための方法には、かなりの共通性があることを確認しえた。それが今回の研究の最大の成果である。

5．主な発表論文等

大形徹・山里純一・佐々木聡・董涛・池内早紀子・大野朋子

《千金翼方・禁經》与日本奈良二條大路呪符木簡

道教学刊 第1号 2018 133-148

大形徹・山里純一・佐々木聡・大野朋子

石垣島・タイ北部・ネパール・中国等の人々の手首にヒモを巻くことについての考察

『形の文化研究』7 2018 1 - 20

佐々木聡

復元白沢図 古代中国の妖怪と辟邪文化

白沢社 2017 176

山里純一

沖縄のまじない：暮らしの中の魔除け、呪文、呪符の民俗史

ボーダーインク 2017 238

〔雑誌論文〕(計 20 件)

〔学会発表〕(計 33 件)

〔図書〕(計 7 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：大野朋子

ローマ字氏名：OHNO Tomoko

所属研究機関名：神戸大学大学院

部局名：人間発達環境学研究科

職名：准教授

研究者番号(8桁): 10420476

研究分担者氏名：山里純一

ローマ字氏名：YAMAZATO Junichi

所属研究機関名：琉球大学

部局名：法文学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 50166659

研究分担者氏名：佐々木聡

ローマ字氏名：SASAKI Satoshi

所属研究機関名：金沢学院大学

部局名：文学部

職名：講師

研究者番号(8桁): 60704963

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。